

こだま俳壇（４月・通信句会）

（以下、自選による）

老猫と生きる競争桜咲く	白井保次郎
菜の花や寅さん帰る江戸堤	瀧澤 正行
子の姿消えし校舎に花吹雪	松尾佐知子
老桜幹に二輪の華残し	角田 英昭
山里のこの日溜りの藪椿	田中 一男
文机に抽斗ふたつ春の宵	坂 守
一面の菜の花畑にトラクター	鳥海 敏雄
蒲公英のにこにこ並ぶ切り通し	島田多嘉子
窓越しにむらさき滲む山ざくら	本山 文子
走友の棺に桃花ランパンと	友井 眞言
花林檎母と二人で摘みにけり	常世田芳子
新コロナ停戦もたらず世直しに	後藤 貞夫
コロナ禍や戦争よりも不気味な春	木村 武子
藤色の衣装似合う手に回覧板	中村 桂子
夢を見た田鼠化して鶉となる	高橋 和江
花筏疫病の街流れゆく	講師・太田 土男